

令和 6 年度吹田市胃がん検診(胃内視鏡検査)実施状況

【用語について】

- ・初回/非初回：過去 3 年度以内に、吹田市胃がん検診の胃部エックス線検査及び胃内視鏡検査の検診受診歴がある場合は「非初回」、受診歴がない場合は「初回」に分類

【受診率の算出方法】

全国、大阪府と比較をするため、国が示す方法に基づき算出。

胃がん検診においては、50 歳～69 歳が対象。

- ・対象者数 = 当該市町村に居住地を有する各がん検診の対象年齢の全住民
- ・受診率 = $((\text{前年度の受診者数}) + (\text{当該年度の受診者数}) - (\text{前年度及び当該年度における 2 年連続受診者数})) / (\text{当該年度の対象者数}) \times 100$

【要精密検査者について】(不完全実施は除く)

- ・要精密検査者：胃内視鏡検査は、①内視鏡検診時に生検を受診した者と、②内視鏡検診時には生検を受診しなかったが、二次読影判定で要再検査(B-1,D)となった者
- ・検診時生検受診者：胃内視鏡検査時に生検を受診した者
- ・検診時生検受診のうち要再検査者：二次読影判定で要再検査(B-3,D)となった者
- ・要精密検査検診時生検未実施：胃内視鏡検査時に生検を受診しなかったが、二次読影判定で要再検査(B-1,D)となった者
- ・精密検査受診者：検診時の生検の結果の報告があった者、精密検査実施機関から再検査の結果の報告があった者、並びに再検査受診者から受診日、実施機関、検査法及び検査結果の報告があった者
- ・胃がんのうち早期がん：がんの浸潤が粘膜内か粘膜下層に留まるもの。リンパ節転移の有無は問わない。
- ・胃がんの早期がんのうち粘膜内がん：がんの浸潤が粘膜内に留まるもの

【プロセス指標※の算出方法】

- ・要精検率 = $\text{要精検者数} / \text{受診者数} \times 100$
- ・精検受診率 = $\text{精検受診者数} / \text{要精検者数} \times 100$
- ・早期がん割合 = $\text{早期がん} / \text{がん発見数} \times 100$
- ・がん発見率 = $\text{がん発見数} / \text{受診者数} \times 100$
- ・陽性反応適中度 = $\text{がん発見数} / \text{要精検者数} \times 100$

※プロセス指標とは…がん検診精度管理指標のひとつ。がん検診事業は大まかに受診者の募集、スクリーニング、精密検査への誘導、精密検査、事業評価のプロセスに分かれているが、プロセス指標は各プロセスが適切に行われているかを評価するための指標。厚労省は平成 20 年度に各プロセス指標値の基準値（許容値・目標値）を決定し、令和 5 年度に新たな基準値に改正し、公表している。

1 受診者数

(1) 年次別胃がん検診受診者数及び受診率

表 1-1 令和 3 年度～令和 6 年度（4～9 月）胃がん検診実績（50～69 歳）

50歳～69歳	令和3年度			令和4年度			令和5年度			令和6年度(4～9月)		
	内視鏡	エックス線	合計	内視鏡	エックス線	合計	内視鏡	エックス線	合計	内視鏡	エックス線	合計
対象者数 ※)	91,592			93,809			96,145					
受診者数	1,095	648	1,743	1,115	685	1,800	1,234	620	1,854	514	222	736
受診率	1.8%	1.2%	3.0%	2.2%	1.1%	3.3%	2.4%	1.0%	3.4%			
初回受診者数	743	160	903	645	191	836	750	208	958	313	77	390
初回の割合	67.9%	24.7%	51.8%	57.8%	27.9%	46.4%	60.8%	33.5%	51.7%	60.9%	34.7%	53.0%

※) 対象者数は年度末人口で集計

「参考」令和 3 年度受診率比較（50～69 歳）

	全国 ¹⁾	大阪府 ²⁾	吹田市
受診率	6.5%	4.0%	3.0%

出典：1)令和 3 年度地域保健・健康増進事業報告

2)大阪府健康医療部作成「大阪府におけるがん検診」

表 1-2 令和 3 年度～令和 6 年度（4～9 月）胃がん検診実績（全年齢）

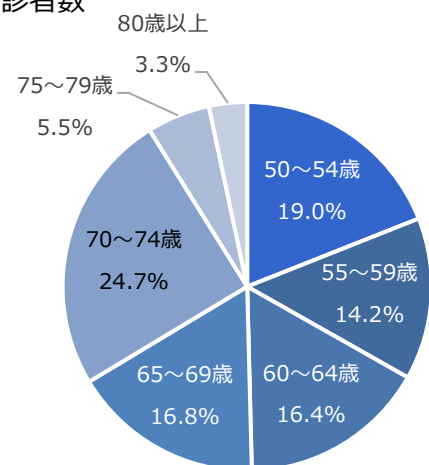
全年齢	令和3年度			令和4年度			令和5年度			令和6年度(4～9月)		
	内視鏡	エックス線	合計	内視鏡	エックス線	合計	内視鏡	エックス線	合計	内視鏡	エックス線	合計
受診者数	1,560	1,080	2,640	1,636	1,104	2,740	1,859	1,003	2,862	822	374	1,196
初回受診者数	1,038	209	1,247	871	245	1,116	1,037	253	1,290	457	95	552
初回の割合	66.5%	19.4%	47.2%	53.2%	22.2%	40.7%	55.8%	25.2%	45.1%	55.6%	25.4%	46.2%

【結果】

- 令和 5 年度の 50～69 歳の受診率は、内視鏡検査・エックス線検査を合わせると 3.4%であった。
令和 3 年度以降受診率は年々上昇傾向であるが、令和 3 年度について全国・大阪府と比較すると低い（表 1-1・参考）。
- 内視鏡検査の受診者数は、50～69 歳においても全年齢においても年々増加している（表 1-1・表 1-2）。
- 令和 3 年度以降、エックス線検査受診者を内視鏡検査受診者が上回っている（表 1-1・表 1-2）。

表 1-3 令和 5 年度胃がん検診(胃内視鏡検査)性別年齢階級別受診者数

年齢階級	受診者数(人)			割合
	男性	女性	合計	
50～54歳	91	262	353	19.0%
55～59歳	73	191	264	14.2%
60～64歳	94	211	305	16.4%
65～69歳	128	184	312	16.8%
70～74歳	202	258	460	24.7%
75～79歳	43	60	103	5.5%
80歳以上	33	29	62	3.3%
合計	664	1,195	1,859	100.0%



【結果】

- 令和 5 年度の内視鏡検査での男女別受診者数を比較すると、男性は 70～74 歳が 202 人と最も多く、次いで 65～69 歳が多い。女性は、50～54 歳が 262 人と最も多く、次いで 70～74 歳が多い。
- 受診者合計は女性 1,195 人、男性 664 人で、女性は男性の約 1.8 倍多く受診している。

(2) 年次別胃がん検診性別、内視鏡検査・エックス線検査別年齢階級別受診率及び受診者数
 (受診率は内視鏡検査とエックス線検査を単純に比較するため、当該年度の対象者で算出したものとする)
 図1・2 胃がん検診(内視鏡検査)年齢階級別受診者数

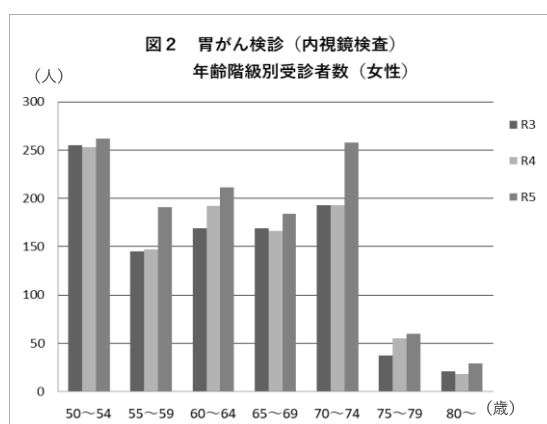
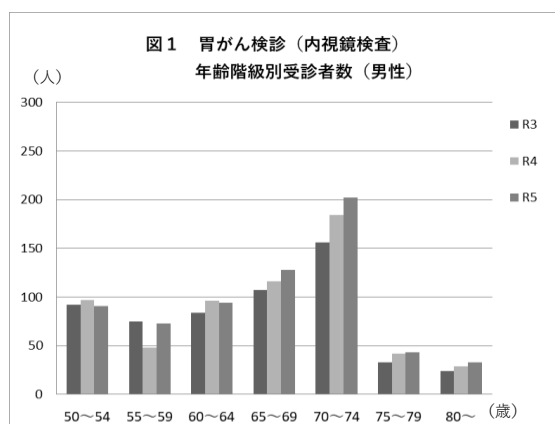
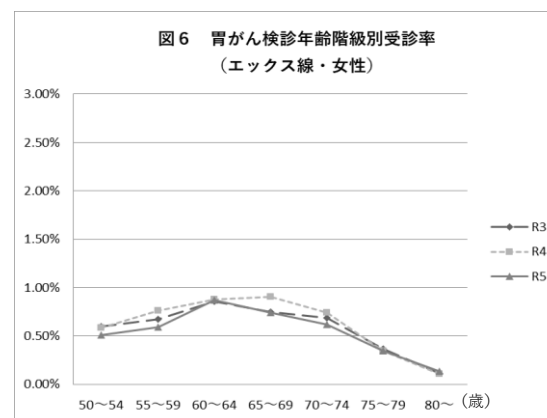
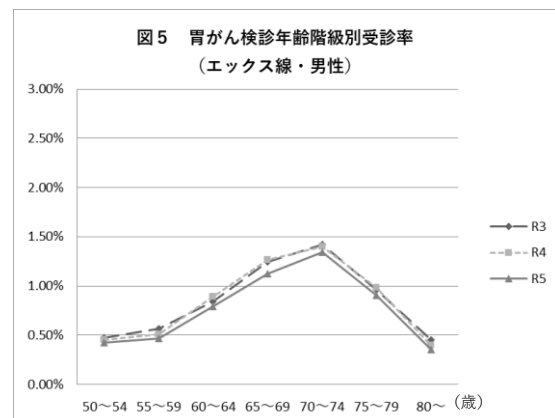
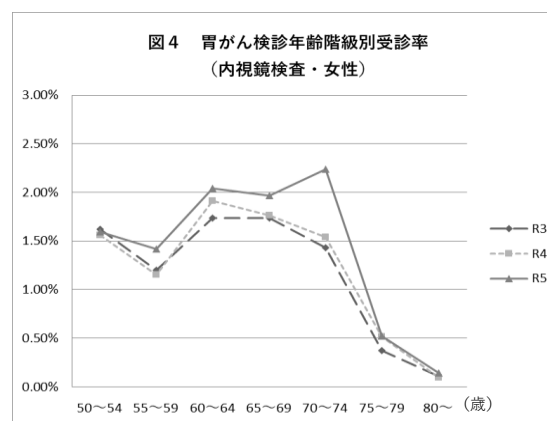
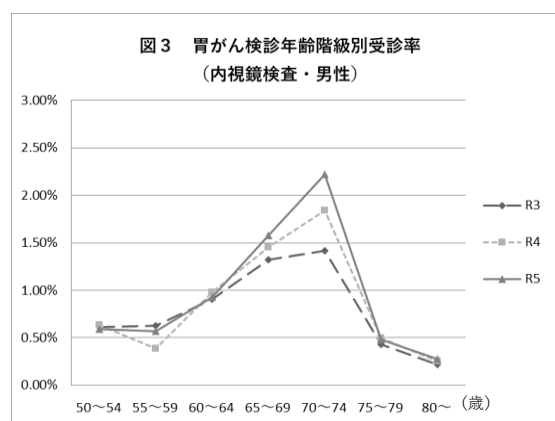


図3~6 胃がん検診(内視鏡検査・エックス線検査)年齢階級別受診率



【結果】

- ・内視鏡検査の受診者数では、令和5年度は前年度に比べて、男性は55~59歳と65歳以上の年代で増加しており、女性はすべての年代で増加している(図1・図2)。
- ・令和5年度の年齢階級別受診率について、男性は内視鏡検査・エックス線検査ともに70~74歳の受診率が最も高く、次いで65~69歳が高い(図3・図5)。女性は、内視鏡検査は70~74歳、エックス線検査は60~64歳が最も高い受診率である(図4・図6)。
- ・受診率の年度ごとの推移について、内視鏡検査は男性では65~69歳、70~74歳の年代で、女性はすべての年代で増加傾向にある(図3・図4)。エックス線検査については年度ごとに大きな変化はない。(図5・図6)。

2 生検

表 2-1 令和 5 年度胃がん検診(胃内視鏡検査)生検実施状況

	受診者数	生検なし	生検あり	生検結果 (Group分類)									
				Group1	Group2	Group3	Group4	Group5	X	その他 (胃)	その他 (食道)	その他 (十二指腸)	その他 (不明)
人数 (割合)	1859	1671 (89.9%)	188 (10.1%)	166	7	1	1	1	0	6	3	2	1

表 2-2 令和 6 年度(4～9 月)胃がん検診(胃内視鏡検査)生検実施状況

	受診者数	生検なし	生検あり	生検結果 (Group分類)									
				Group1	Group2	Group3	Group4	Group5	X	その他 (胃)	その他 (食道)	その他 (十二指腸)	その他 (不明)
人数 (割合)	822	748 (91.0%)	74 (9.0%)	60	1	0	2	3	0	6	2	0	0

Group 1 : 正常組織および非腫瘍性病変 Group 2 : 腫瘍(腺腫または癌)か非腫瘍性か判断の困難な病変
 Group 3 : 腺腫 Group 4 : 腫瘍と判定される病変のうち、癌が疑われる病変
 Group 5 : 癌 Group X : 生検組織診断ができない不適材料

【結果】

- ・生検率は令和 5 年度 10.1% (表 2-1) で、生検目標値達成に至らなかった。
- ・令和 6 年度 (4～9 月) は生検率 9.0% (表 2-2) であり、9 月時点では、生検目標値である 10%以下を達成している。

「参考」胃内視鏡検査の許容値

生検導入時	15%以下
生検目標値	10%以下

出典：対策型検診のための胃内視鏡検診マニュアル
(2017 年発行)

3 読影判定

表 3-1 令和 5 年度胃がん検診(胃内視鏡検査)一次読影判定及び二次読影判定

		二次						総計
		A	B-1	B-2	B-3	C	D	
一 次	A	1,662	1	0	0	2	0	1,665
	B	7	3	147	0	0	0	157
	C	6	0	1	0	29	0	36
総計		1,675	4	148	0	31	0	1,858

表 3-2 令和 6 年度(4～9 月)胃がん検診(胃内視鏡検査)一次読影判定及び二次読影判定

		二次						総計
		A	B-1	B-2	B-3	C	D	
一 次	A	747	0	0	0	0	0	747
	B	2	1	57	0	0	0	60
	C	2	0	0	0	13	0	15
総計		751	1	57	0	13	0	822

A 異常なし B 胃がんを疑う所見あり
 B-1 当日生検なし、胃がんを疑う所見あり B-2 当日生検あり、生検部位に胃がんを疑う所見あり
 B-3 当日生検あり、生検部位以外に胃がんを疑う所見あり
 C 胃がん以外の悪性疾患またはその疑い D 読影部位が不足しているため判定不能

【結果】

- ・D 判定(読影部位が不足しているため判定不能)の者は、令和 5 年度、令和 6 年度 (4～9 月) とともに 0 人であった。

4 要精検者について

表4 年次別胃がん検診(胃内視鏡検査・エックス線検査)要精検者内訳

	令和3年度					令和4年度					令和5年度					令和6年度(4～9月)				
	胃内視鏡検査			エックス線	合計	胃内視鏡検査			エックス線	合計	胃内視鏡検査			エックス線	合計	胃内視鏡検査			エックス線	合計
	生検	生検未実施	計			生検	生検未実施	計			生検	生検未実施	計			生検	生検未実施	計		
受診者数	1,560			1,080	2,640	1,636			1,104	2,740	1,859			1,003	2,862	822			374	1,196
要精検者数	216	7	223	74	297	141	3	144	57	201	188	3	191	74	265	74	0	74	19	93
精検受診者数	215	4	219	65	284	141	2	143	54	197	188	3	191	65	256	57	0	57	14	71
要精検率	13.8%	0.4%	14.3%	6.9%	11.3%	8.6%	0.2%	8.8%	5.2%	7.3%	10.1%	0.2%	10.3%	7.4%	9.3%	9.0%	0.0%	9.0%	5.1%	7.8%
精検受診率	99.5%	57.1%	98.2%	87.8%	95.6%	100.0%	66.7%	99.3%	94.7%	98.0%	100.0%	100.0%	100.0%	87.8%	96.6%	77.0%	0.0%	77.0%	73.7%	76.3%
精 検 結 果 内 訳 (人)	異常なし	16	2	18	8	26	16	0	16	5	21	4	1	5	2	7	2	0	2	4
	胃がん	3	1	4	1	5	4	0	4	1	5	2	0	2	1	3	3	0	3	5
	胃がん疑い	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	6	0	6	1	0	1	1	2
	胃がん以外の疾患	196	1	197	56	253	121	2	123	48	171	176	2	178	62	240	51	0	51	60
	胃ポリープ	36	0	36	7	43	19	0	19	16	35	29	1	30	9	39	1	0	1	3
	胃・十二指腸潰瘍(瘢痕含む)	16	0	16	6	22	12	0	12	5	17	13	0	13	8	21	5	0	5	6
	胃びらん	68	1	69	1	70	35	1	36	0	36	56	1	57	2	59	20	0	20	21
	胃炎	51	0	51	34	85	36	1	37	21	58	46	0	46	33	79	11	0	11	16
	その他 ※)	25	0	25	8	33	19	0	19	6	25	32	0	32	10	42	14	0	14	14
未受診/未把握	1	3	4	9	13	0	1	1	3	4	0	0	0	9	9	17	0	17	5	22
がん発見率	0.19%	0.06%	0.26%	0.09%	0.19%	0.24%	0.00%	0.24%	0.09%	0.18%	0.11%	0.00%	0.11%	0.10%	0.10%	0.36%	0.00%	0.36%	0.53%	0.42%
陽性反応適中度	1.39%	14.29%	1.79%	1.35%	1.68%	2.84%	0.00%	2.78%	1.75%	2.49%	1.06%	0.00%	1.05%	1.35%	1.13%	4.05%	0.00%	4.05%	10.53%	5.38%

※) 胃以外の悪性疾患：食道がん疑い、食道がん、下咽頭がん、十二指腸乳頭部癌

「参考」令和3年度(全年齢)

全年齢	大阪府			吹田市		
	内視鏡	エックス線	総計	内視鏡	エックス線	総計
要精検率	13.3%	5.0%	7.2%	14.3%	6.9%	11.3%
精検受診率	99.5%	82.8%	91.0%	98.2%	87.8%	95.6%
がん発見率	0.52%	0.11%	0.22%	0.26%	0.09%	0.19%
陽性反応適中度	3.9%	2.3%	3.1%	1.79%	1.35%	1.68%

出典：大阪府健康医療部作成「大阪府におけるがん検診」

「参考」精度管理指標と基準値(50～74歳) 「参考」旧プロセス指標

	検診間隔2年	検診間隔1年		
要精検率	7.7%以下	7.6%以下	要精検率	11.0%以下
精検受診率	90%以上	90%以上	精検受診率	70%以上
がん発見率	0.19%以上	0.11%以上	がん発見率	0.11%以上
陽性反応適中度	2.5%以上	1.5%以上	陽性反応適中度	1.0%以上

出典：厚生労働省 令和5年6月 がん検診のあり方に関する検討会

【結果】

- ・胃内視鏡検査とエックス線検査を比較したところ、要精検率・精検受診率はすべての年度で胃内視鏡検査の方が高い。
- ・胃内視鏡検査の精検受診率は、令和3年度以降、基準値*を満たしているが、要精検率はいずれの年も基準値を満たしていない。(令和6年度は途中経過)
- ・内視鏡検査のがん発見率は、令和3年度 0.26%、令和4年度 0.24%と基準値*を満たしている。令和5年度については、0.11%と基準値*を満たしてはいないものの、胃がん疑いで追跡調査中のものが6名いる。
- ・エックス線検査は、要精検率は、例年基準値*を満たしているものの、精検受診率は、令和3年度と令和5年度 87.8%と基準値*を満たしていない。がん発見率は、令和3年度から令和5年度まで、0.09%、0.09%、0.10%と基準値*を満たしていない。

*令和5年6月に示された「がん検診のあり方に関する検討会報告書」において、プロセス評価の基準値が変更された。

5 胃がんであったケースの詳細

令和 5 年度胃内視鏡検査において、「胃がんまたは胃がん疑い」と診断された者は 8 名であった。

個人情報保護の観点により、詳細な内容は非公開とします。

6 検診実施医療機関別プロセス指標

個人情報保護の観点により、詳細な内容は非公開とします。